

予算等審査 特別委員会



予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長菊池巴喜男議員、副委員長菊池浩士議員）は、条例11件、予算14件、その他3件について付託を受け、審議を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑を交わしました。その結果、1議案を否決し、27議案を原案のとおり可決しました。

持続可能な 消防団組織のために

問 消防団員の定数を935名から850名に減らした理由は。

答 市の人口減少に伴い、消防団員も減少している。現状に併せて850名としたい。これからは、処遇改善をしながら団員を確保していく。

問 今回の報酬改正によって団員確保ができるのか。

答 今、20代が62名と少なく、これから企業



消防団機関運用訓練の様子

等を回りながら入団していただくよう努力したい。

問 まだ若い世代30代40代で、退団していくケースが多くみられる原因は。

答 主なものは、仕事の関係や健康上の理由でやむを得ず退団している。ポンプ操法競技会の練習など仕事にも影響することのないように、今後取り組んでいきたい。

市債の減額 行財政への影響は

問 市債の合計額前年度と比較し6億4千2百万円も減額になっている。これだけ減額して行財政に影響は。

答 借金をしないことで予算に余裕ができた。今後も公債費の圧縮を図り、財政の健全化に取り組む。

問 臨時財政対策債は満額交付税措置される」と理解しているが。

答 臨時財政対策債は満額交付税で措置されるものである。現在の市全体の市債は、約73%が後で交付税措置される。

妊産婦が安心して 住める町に

問 ※ハイリスク妊産婦へ宿泊費助成の内容は。

答 これまでもハイリスク妊産婦の通院交通費を助成している。加えて、診察や分娩のため周産期医療センター



安心して出産できる環境を

へ入院又は近隣の宿泊施設に待機宿泊する際に、上限5万円の助成をしたい。

問 市内には出産できる病院がない現状だ。一般妊産婦への待機宿泊助成の検討は。

答 ハイリスク妊産婦の状況を見ながら、一般妊産婦の待機宿泊助成等を検討していく。

問 産後ケア事業の内容は。

答 市内ホテル施設の日の時間帯を活用し、助産師による産後の母親の心身ケアと育児支援をしたい。

※ハイリスク妊産婦とは
妊娠中・出産中・産後母体または胎児（新生児）に健康上の問題や合併症を悪化させる危険性があるなど、なんらかのリスクを伴う可能性のある妊娠を意味する。

鳥獣害被害対策を

問 ハンター数は適切か。

答 鳥獣害実施隊は現在104名だが、4月には112名になる。定員は120名としている。

問 シカの頭数は、一向に減る見込みがないが、一斉にまとまって駆除できないか。足りない時は他市町村からも応援を求めるとは出来ないか。

答 現行のルールでは、11月から3月までは、狩猟期間中なので、保護区以外は他市町村の方も狩猟できる。4月から10月までは、市町村有害駆除期間で市外のハンターは狩猟できないことになる。11月から3月の間は一斉駆除できるので、県とも相談したい。

問 このままでは、シカが増えるのみで被害が増大する。市として決意を聞きたい。

答 実施隊、応援隊も高齢化しているので持

馬事振興の推進

問 遠野馬の里の施設が老朽化している。計画的な修繕を。

答 ふれあい事業に関わる箇所から優先して取り組んでいる。今後、馬の里と協議しながら優先修繕計画をつくり進めたい。

問 ホースパーク供用馬の高齢化対策は。



創意工夫してきた乗用馬市場
持続可能な馬事振興への取り組みを

問 白雪（馬車担当馬）の後継馬について協議している。

問 生産者側に立った馬産振興を。

答 生産者と馬の里の方針が一致しないと生産振興にならない。生産者との懇談で出てきた課題について精査し、協議して進める。

問 公益性と収益性の考え方を改めて明確に。

答 部門別収支の検討に着手している。収益の柱がない現状。経営改革に取り組まなければならぬが、馬産振興・馬事文化の保存継承にどのように取り組むか、馬の里の在り方を検討しなければならぬ。

祭りや、イベント開催の考え方は

問 花火まつりの必要性は。

答 中止されていた2年間でふるさと納税の寄附が550万円ほどある。長く愛されてきた事業であり、コロナ収束の願いを込めて開催したいと思っている。

問 遠野まつり関連予算を増額すべきでは。

答 令和4年度に遠野まつり50周年を迎える。これまで特設ホームページを立ち上げるなど準備をしてきた。令和4年度は100以上



日本夜景遺産に認定されためがね橋（宮守川橋梁）

もある郷土芸能団体の育成などに補助金を増額して、50周年を盛大に開催したいと考えている。

問 宮守町の観光振興は。

答 令和4年度の柏木平リバーサイドまつりについては、アフターコロナを見据えた「まつりの在り方」について協議する時間が必要であり、開催を見送る

考えである。観光施設としての寺沢高原の活用を含め、他の施設も環境を整備し、西の玄関口宮守町の観光を積極的にPRしていく。

学校と地域の連携・協働推進事業

問 事業費の内容は。

答 令和4年度から始

まる学校運営協議会に係る協議会の運営委員、部会の委員、エリアコーディネーターの報酬費、推進に係る研修費の費用である。

問 コミュニティ・スクールのでは、地域住民がどのように学校教育に関わるのか、子ども達の成長に結びつくのか。エリアコーディネーターの役割は。

答 エリアコーディネーターは、各中学校区に1名配置する。学校運営協議会及び小中学校の全部会に出席し、学校と地域の情報の共有や会議の内容を地域住民へ伝えるなど、橋渡し役を担っていた。地域住民等を良く知っていることから地域と学校との間をつなぐことで、学校と地域がパートナーとして連携・協働することができると。

子ども達が安心して学びを深められるよう、学校と地域が目標を共有し、学校運営に参画いただくことを期待する。

